

はじめに

- 受信機を正しく施工していただくために、設置工事を実施する前に、この施工説明書をよくお読みください。施工後は、この施工説明書を大切に保管してください。
- この施工説明書は、標準仕様の受信機の施工方法について記述しています。特殊仕様の受信機については別途、外觀図・回路図・仕様書などがありますので、それらの内容をご確認の上、施工してください。なお、受信機の詳細については、『P型1級火災受信機／複合火災受信機 FAPJ/FCSJ106Nシリーズ、GP型1級ガスもれ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機 FAPGJ/FCSGJ106Nシリーズ 取扱説明書』（TN52076）（以降、『取扱説明書』（TN52076）と表記）を参照してください。
- 出荷状態のままAC電源を入れると、起動後すぐに「予備電源異常」と異常状態が表示されます。

火災受信機の設置場所

故障や誤作動を防ぐために、以下の場所へ設置してください。

- 直射日光の当たらないところ、暖房やボイラーなどからの熱風が直接あたらないところ。
- 水滴、蒸気、ほこり、腐食性ガスなどがかからないところ。
- 強力な電磁波を発する機器が周囲にないところ。
- 振動の少ないところ。
- 周囲に操作上支障となる障害物のないところ。
- 常に人がいて、様子を確かめられるところ。
- 周囲の温度が0～40℃、湿度が20～85%RH（結露なきこと）のところ。
- 水平に取り付けられるところ。

キャビネットの取り付け方法（壁掛型の場合）

注意

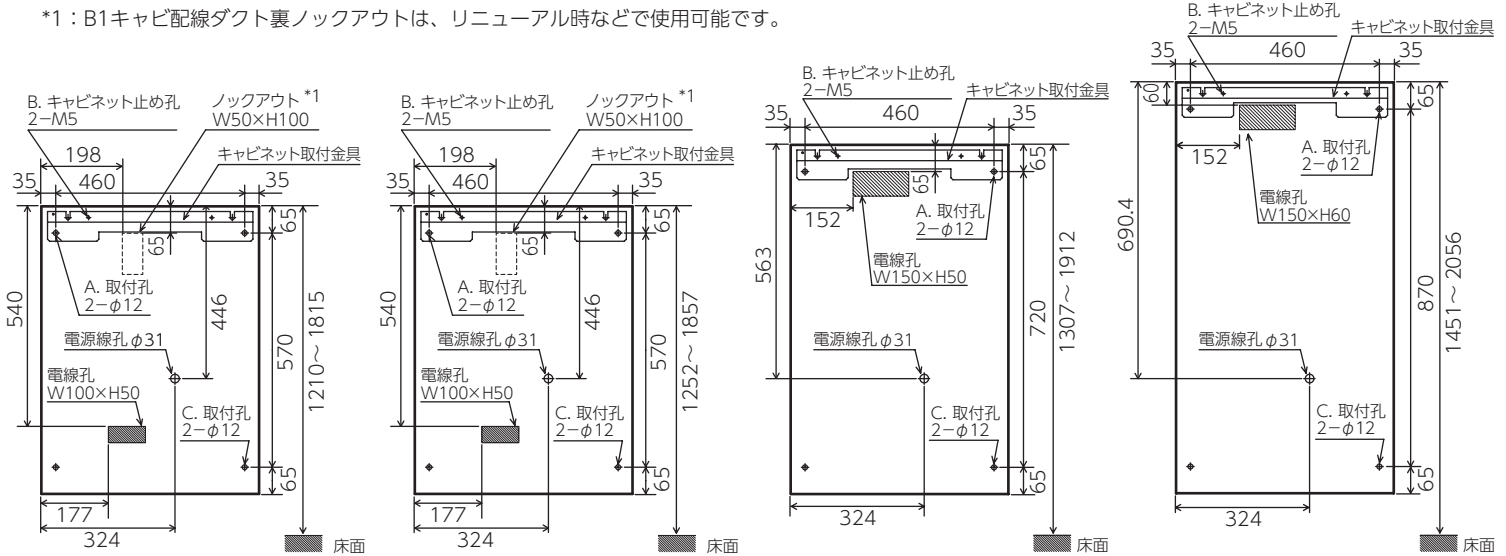
- 受信機はその重量に十分耐えるように、強固に取り付けてください。強固に取り付けなかった場合、脱落などを引き起こし、けがの原因になります。
- キャビネットに直接穴をあける場合は、切りくずが回路部に入り込まないように、十分注意してください。ショートや故障の原因となります。

- ① キャビネット取付金具をアンカーボルト（M8）または同等品で壁面に取り付けてください（A. 取付孔2か所）。
 壁面の強度が弱い場合には、補強材で補強した上で取り付けてください。
 床面からの取り付け高さは、下図に示す範囲内にしてください。
- ② 取付金具にキャビネットを引っ掛けて、付属のビスで取付金具とキャビネットを固定してください（B. キャビネット止め孔2か所）。
- ③ ①と同様にキャビネットを壁面に取り付けてください（C. 取付孔2か所）。

※自立型、GP型については別途お問い合わせください。

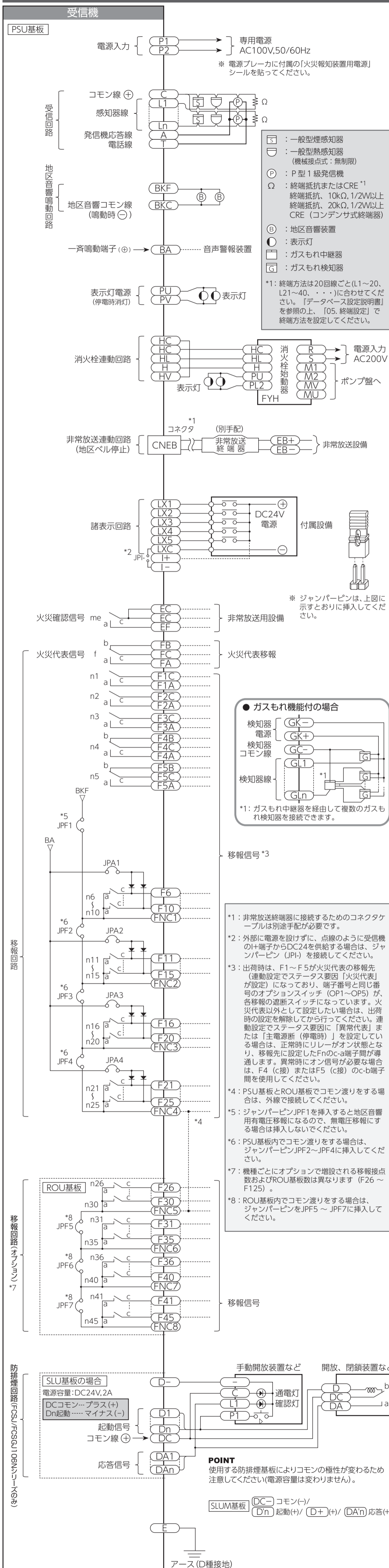
取付寸法図（扉開状態）正面図

*1：B1キャビ配線ダクト裏ノックアウトは、リニューアル時などで使用可能です。



(単位:mm)

接続図



接続条件

- 地区音響装置 接続容量: 30~50L型: DC24V, 450mA(DC24V, 10mA x 45個) 60~100L型: DC24V, 600mA(DC24V, 10mA x 60個)
- 表示灯 接続容量: AC24V, 840mA (30V, 2Wランプ x 14個, 24V, 21mA LED x 40個, 24V, 15mA LED x 56個)
- 無電圧接点容量: DC24V, 1A, またはAC24V, 1A
- 手動開放装置の常時通電灯の電源 電源容量: DC24V, 150mA *1
 - FCSJ/FCSGJ106N-nL/nLTシリーズの場合: (DC-)、(D+) からとってください。
 - FCSJ106N-nLMシリーズの場合: (DC-)、(D+) からとってください。
- ±は電源容量については、「表示機接続台数」の表を参照してください。

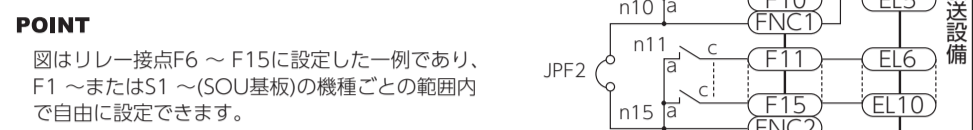
*1: 使用する防排煙用電源容量により増やせず。詳細は取扱説明書(TN52076)の仕様を参照してください。

注意

各ジャンパーピンについては、物件の仕様に応じて、正しく設定してください。誤った場合、受信機が正常に動作しません。

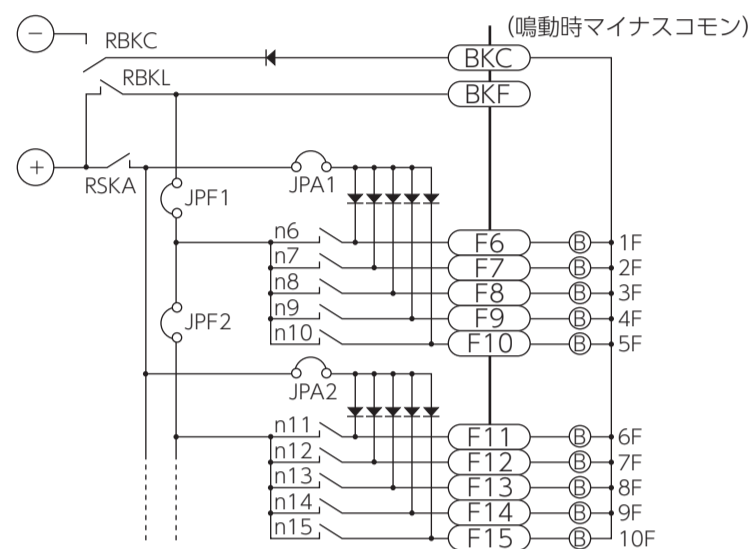
非常放送設備の接続

- NリレーまたはSリレー接点を「データベース設定説明書」を参照の上、「08. 連動設定」で階別に設定します。
- F6~F25を使用し、PSU基板内でコモン渡りをする場合は、別途ジャンパーピン(JPF2~JPF4)の設定が必要です。



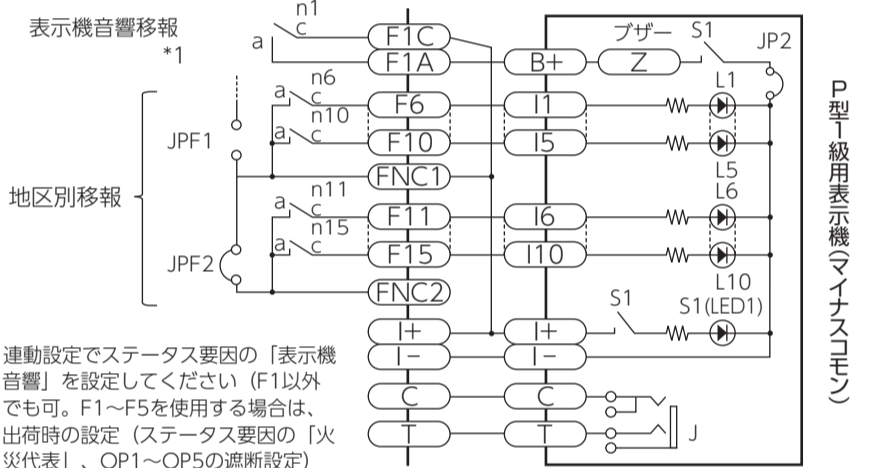
地区音響出力火警・直上階鳴動の接続

- Nリレー接点を「データベース設定説明書」を参照の上、「08. 連動設定」で出力火警・直上階に設定します。
- 出力火警・直上階の設定にはPSU基板内のF6~F25の端子を使用します。
- ジャンパーピンは、地区音響有電圧移報用JPF1~JPF4、地区音響一斉鳴動用JPA1~JPA4を接続します。

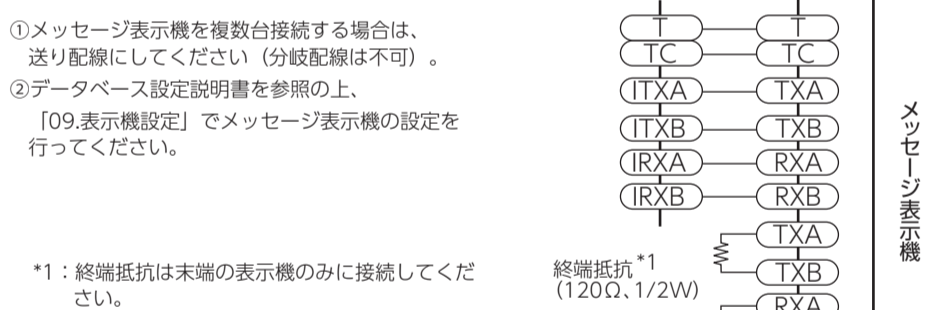


表示機の接続

- P型1級用表示機接続例 (F6~F15を使用し、10L型表示機と接続する場合)



- メッセージ表示機



表示機接続台数

P型1級用表示機

P型1級用表示機は最大4台まで接続可能です。*1

表示機を5台以上接続する場合は、外部電源(FYZ011Cなど)を使用してください。回線数により±の電源容量(表示機以外の用途で使用可能な分)が異なります。なお、本電源は排煙口などの常時通電する機器には使用できません。

*1: FIP103シリーズ表示機の接続台数は弊社までお問い合わせください。

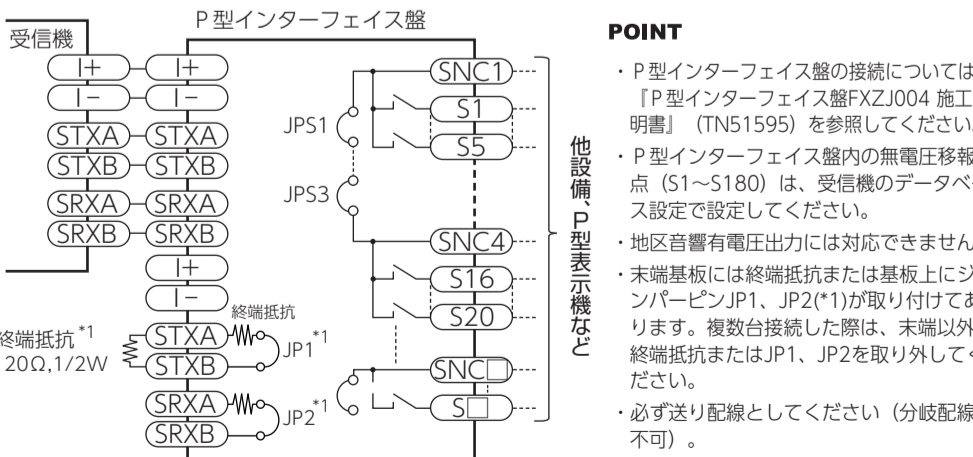
回線数	10	15	20	30	40	50	60	70	80	90	100
FAPJ106Nシリーズ	±電源容量(mA)	-	-	440	440	430	420	-	-	-	-
FCSJ106Nシリーズ	±電源容量(mA)	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450
FCSGJ106Nシリーズ	±電源容量(mA)	-	450	-	450	450	-	-	-	-	-

メッセージ表示機

メッセージ表示機は最大31台まで接続可能です。回線数によらず、±電源容量(表示機以外の用途で使用可能な分)は同じです。

回線数	10	15	20	30	40	50	60	70	80	90	100
FAPJ106Nシリーズ	±電源容量(mA)	-	-	450	450	450	450	-	-	-	-
FCSJ106Nシリーズ	±電源容量(mA)	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450
FCSGJ106Nシリーズ	±電源容量(mA)	-	450	-	450	450	-	-	-	-	-

P型インターフェイス盤の接続



送受話器袋・マグネットフックの取り扱い

送受話器を受信機内に設置しない機器の場合は、送受話器袋とマグネットフックが付属されています。操作・表示に支障のない位置で受信機の側面や底面に、マグネットフックで吊り下げてください。

絶縁抵抗試験を行うときの取り扱い

非常放送設備でコネクタCNEBを接続する場合、非常放送設備の仕様により絶縁抵抗試験が不良となる可能性があります。その場合は、コネクタCNEBを一時的に取りはずして試験を実施するなどの対応を行ってください。

